

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694100278		
法人名	株式会社関西サンガ		
事業所名	なぎつじグループホーム		
所在地	京都市山科区封シ川町43-2 京都なぎつじ翔裕館		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2694100278-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町2-1		
訪問調査日	令和元年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差した介護を行い、ご入居者様お一人お一人がその人らしく今までの生活を継続するために自立支援を心がけています。また、お一人ずつの家庭でもあるので安心・安全に今までの生活を継続できるようご支援させて頂いています。ADLを落とさないように体操や散歩なども積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

なぎつじグループホームは、山科の中心部に位置し、地域密着型特定施設を併設している開設1年目のユニットのグループホームです。法人の理念に基づき事業所の基本方針として「地域に根差した介護を行い、ご入居者様お一人お一人がその人らしく今までの生活を継続するために自立支援を心がけます」を目指し介護を実践しています。地域行事として山科祭りの参加、認知症サポーター講座の開催などを実施し、更なる地域とのつながりを広められるよう努めています。事業所では入居者のADLの低下予防に繋がられるよう毎食前に健康体操や口腔体操を行っています。また週3回はおやつレクリエーションとして入居者と一緒におやつ作りをするなど入居者にとって楽しい時間となっています。さらに食事にはテレビを消してクラシック音楽を流し、ゆったりとした環境の中で食事ができるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者様の今までの地域での生活をできる限り継続できるようにご支援して安心・安全にお過ごし頂く。	毎朝行う全体朝礼で法人理念を唱和しています。また、月に1度の全体会議において、理念について職員へ周知を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへの買い物や近隣の散歩や祭りへの参加を行っている。	周辺の散歩や近くのコンビニへの買い物、また地域のお祭りでは神輿に事業所の前まで来てもらうなどの交流があります。さらに管理者が自治会館で認知症サポーター講座を開催するなどの取り組みがなされています。	地域のお祭りへの参加や認知症サポーター講座の開催など地域とのかわりを大切にされていますが、入居者と地域との交流を事業所の取り組みとして開催し、事業所の様子や雰囲気を見ていただく機会にはいかががでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での現状のご報告と地域が行う認知症サポート講座にアドバイザーとして職員が参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた情報をもとに地域へのイベントに参加させていただいている。	地域包括・民生委員・自治会長・学区自主防災会長などの参加により、2ヶ月に1度運営推進会議を開催しています。会議では事業所の活動報告や事故報告などを行い、地域からはイベントの情報提供などがあり、積極的な意見交換が行われています。	運営推進会議の議事録は家族へ郵送されていますが、家族参加はできていない状況です。どうしても参加していただくことが難しいようであれば事前に運営推進会議への意見・要望などを聴取し、議題にあげられてはいかががでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書の提出や懸案事項がある際は市町村の介護保険課に連絡し確認して対応している。	運営推進会議議事録や消防訓練の報告書は直接行政へ届け、手渡しするようにしていますが、より一層、事業所を認識してもらい良好な関係性が構築できることが今後の課題となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の身体拘束委員会を開催しご利用者様への介助が身体拘束にならないかを検討している。	身体拘束マニュアルが整備され、3ヶ月に1度、身体拘束廃止委員会を開催しています。また職員は3ヶ月ごとに身体拘束・虐待について自己点検チェックシートによりセルフチェックを行っており、自身のケアの振り返りを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修スケジュールの中に虐待の研修を組み込み職員に参加してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を活用しているご利用者様はGHIにはおられず施設全体ではおられるので職員には全体会議で制度の理解の研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容変更や料金改定の際にはその都度ご入居者様の家族様より同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などに参加の呼びかけを行っているがなかなか平日の昼間なので時間が合わないが頻りに家族様が面会に来館されるので常に連携を取り情報収集するようにしている。	併設の特定施設の玄関に意見箱の設置はされていますが、今のところ活用された事例はないようです。家族の面会は多く、直接何でも意見を言っただけのように職員から声をかけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社として従業員満足度調査などを行っている。また、グループホーム会議などで職員からの意見を組み上げ運営に反映させている。	年に1度、法人がインターネットにより職員に対して満足度調査を実施し、出された意見を集約し、月に1度開催される全体会議において職員へ報告しています。また職員の意見・要望は、その都度管理者へ言えるような環境となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行い職員の評価や給与改定を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社としてキャリアパス研修を行い階級によって参加する研修などを定めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内のグループホームの管理者クラスが集まり勉強会や懸案事項など法人での部会を設立し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを行う際にはケアマネジャーと管理者が面談に行きご本人様の意向とご家族様の意向をプランに反映させ支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様の要望などもしっかりうかがいプランに反映し支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する際には福祉用具やご入居者様がより住みやすいように環境整備するようにこころがけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	イベントなどにも職員も一緒に参加し同じものを食べている。また、洗濯物などの支援の際も一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の表情などをしっかり観察しご利用者様がいつもと違う様子であれば傾聴し積極的にかかわるようにする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様からのご要望があればご家族様と電話をしたりしご本人様とご家族様が一緒に外出できるように支援している。	家族の面会は多く、外食などを楽しんでいます。また、家族の協力を得ながら、墓参りや自宅への週末外泊が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が助け合えるように日頃からフロアで他者とかがわれる環境を作っておく。レクリエーションなどを通してかかわれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了対象様がまだいないのでわからないがご本人様がより良い生活を継続できるようにご支援させて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にご本人様の意向をしっかりプランに反映しご本人様のペースで生活できるような支援をこころがけている。	介護計画を立案する際には担当者会議を開催し、入居者・家族から希望や意向を聴き取り把握しています。把握した意向や希望はアセスメントシートに記載され、介護計画に反映しています。	ケアプランの見直しにあわせて入居者の希望・意向は本人への聴き取りとなっています。入居者の思いをしっかり把握するためにもセンター方式(C-1-2)などを活用されてははいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の病院を継続し通われている方や外泊し週1回はご自宅に戻りご家族様と生活されているかたもいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホーム内でのご入居者様のカンファレンスにて情報共有し職員はみんなで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がカンファレンスであげた課題や取り組みをケアマネジャーを通してご家族様にお伝えし担当者会議を開いてから介護計画を作成している。	月に1度開催されるグループホーム会議の中でカンファレンスを行い、医師・看護師・入居者・家族などからの意見・要望や、抽出した課題などについて検討し、「議題記入表」に記載され、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスまでにモニタリングを行い、介護計画に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時など臨時往診を依頼し往診で対応できない際には協力医療機関にお連れし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域方からの情報をもとにイベントに参加している。 また、機能訓練を兼ねて近隣のスーパーやコンビニにも買い物に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2人の先生が往診対応を行っている。また、体調不良時には臨時往診などを行い対応している。	入居契約時に今までのかかりつけ医での受診が可能であることを説明し、以前からの専門医への受診を継続している入居者もおられます。協力医は2週間に1度の往診ですが、体調不良時は臨時往診や協力病院への緊急受診対応となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面については看護師が中心になり往診医と連携を図り随時必要に応じて先生から指示を頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されている際には退院前のカンファレンスに参加しスムーズに退院できるように入院先の相談員と連携しスムーズに退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した指針の説明を行っているが現在は看取り対象者がいない。	入居契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」「看取り介護に関する指針」の説明を行い同意を得ています。年に1度、看取りについての研修を行っていますが事業所としての事例はまだありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応研修やAEDの使用方法などを研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練や設備点検を業者や消防署を交えて行い緊急時に備えている。	年2回のうち1回は消防署立会いの下で消防訓練や水害訓練を実施しています。非常災害マニュアルや緊急連絡網は、いつでも見ることが出来るよう事務所内に掲示されています。また、研修を実施し、非常時の対応手順や役割の明確化の周知徹底を図っています。非常食や水は入居者・職員のために3日分が備蓄されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修やご入居者様に対しての尊厳の研修を行っている。	「高齢者のプライバシー保護と尊厳保持」についてマニュアルを基本として年1回の研修を行っていることを研修報告書で確認できました。また入居者への声かけなどで気になる場面があれば、職員間で注意しあえる関係作りを目指しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の好きなおやつを持って頂いたり、外食レクの際にはメニューやドリンクなども選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の個々のペースでそれぞれのライフスタイルに合わせお過ごし頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の服など選ぶ際はご入居者様に選んで頂いている。また、入浴の際のもご本人様にふくを選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ずつご家族様にお願いし好きな食べ物を持ってきて頂き、ご本人様が希望する好きな時間に提供し召し上がって頂いている。	食事は厨房にて作られ配膳されるシステムとなっておりますが、食事前のテーブル拭きや手指消毒は入居者の役割となっております。また週3回は手作りおやつ(ホットケーキやホイップクリームにフルーツ並べなど)を入居者と一緒につけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託会社より栄養士管理のもとバランスの取れた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕全て口腔ケアを行い、週1回訪問しかでも確認して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレのお声かけが必要な方に対しては食事前などに確認していて、オムツ交換も時間や排泄パターンをつかみ行っている。	一人ひとりの介護記録に排泄チェックができようになり、排泄パターンを把握し個々の排泄時間に合わせてトイレ誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難な方は下剤に頼るだけでなくヨーグルトやヤクルトにオリゴ糖を入れたりし自然排便できるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調に合わせて入浴は行えている。また、体調不良時には清拭や足浴に代替えし行っている。	入浴は週2回、10時から12時を基本としていますが、入浴を断られた時は、入浴時間を午後からに変更するなど対応しています。3種類の入浴剤から入居者が決めて入浴を楽しむことができるようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人ずつ就寝時間なども決めずご本人様のその日の様子を見て就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医と連携し、往診医の指示に従い服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品を買いに近所のスーパーやコンビニに行くこともあり。また、毎月レクリエーションを楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーなどには職員が付き添っている。また、ご家族様のご協力のもと週に1回外泊されている方もいる。	洗濯干し場が1階に設置されており、天気の良い日は職員と一緒に洗濯物を干すなど、外気浴を楽しんでいます。また玄関前には「放課後等デイ」があり、通っている子どもたちとの交流もできています。さらに近隣のコンビニエンスストアやスーパーに出掛け、必要なものが購入できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は難しい方が多いので、小口で立替ご本人様と一緒に買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻回に面会に来てくださるご家族様はよいが遠方にご家族様がおられる方は電話などで連絡を取られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファなど置き一人一人が好きな場所で過ごせる空間づくりを行っている。また、個室空間でプライベートな時間を過ごす空間もある。	リビングには職員と入居者で作った季節ごとの壁掛けが飾られており、季節を感じられるようになっています。またリビングは広くて明るく清潔感を感じることができます。食事やレクリエーションなどそれぞれに合わせた音楽を流し、温度調節などにも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では仲の良い方達が集まり座談を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使いた家具や備品などを持ち込んできて頂いている。	入居契約時に使い慣れたものを持参いただけるよう説明しています。また部屋にはソファが設置されるなど、ゆっくりと寛げる空間となっています。さらに月1回、外部講師による作業レクを開催し、作った季節ごとの作品が居室に飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援をこころがけているので洗濯たたみやシーツ交換などはご入居者様と一緒にやっている。		